

日本臨床薬理学会海外研修員報告書

－研修経過報告書 第1報－

島本裕子

Department of Clinical Pharmacology & Toxicology

The Hospital for Sick Children

1. はじめに

私は2018年4月よりカナダ, トロントの Department of Clinical Pharmacology & Toxicology, The Hospital for Sick Children において伊藤真也先生のご指導の下, research fellow として研修を開始いたしました. 今回の留学に際し, 海外研修員として選考し, ご支援いただいております日本臨床薬理学会の先生方ならびに日本製薬工業協会の皆様方に厚く御礼申し上げます.

2. The Hospital for Sick Children

The Hospital for Sick Children (SickKids)は 1875 年に設立された小児病院であり, 世界有数の小児治療・研究機関です. 病院機能を有する main campus のほか, 2,000 名以上の研究者を擁する世界最大規模の小児研究機関である Peter Gilgan Centre for Research and Learning (PGCRL)が隣接しており, 私は現在, PGCRL において研修を行っています.

SickKids がトロントの人々に非常に親しみをもって受け入れられているのを最初に実感したのは, カナダへの入国初日でした. 入国時, 空港のビザ発給の担当官が私のカナダでの所属機関が SickKids であるのを目に留め, 自分の身内が幼少時に SickKids で治療を受けたこと, 今は幼少時の病気が嘘のように成人として活躍していることを嬉しそうに話しておられました. その後もトロントの人々と話す際, SickKids の名前が出る度に好意的な反応を示されると感じています. このように, 世界有数の治療・研究機関であると同時に地元の人々が親しみと敬意を持っておられる施設で研修をさせていただいていることに, 私は非常に感謝しております.

また, SickKids に寄せられる寄付金の額はカナダの病院で最も大きいことが知られており, このことから SickKids が人々の関心を集める治療・研究機関であることが分かります. 動画投稿サイトの YouTube では SickKids が病院の PR や寄付金を募るために提供する動画を多数視聴することができますが, 映画の予告編かと思うほどの映像のクオリティの高さに目を見張るばかりです. 現在, SickKids が行っているキャンペーンの寄付金目標額は\$1.3 billion であり, 寄付に関する文化が日本とは異なるという背景を考慮しても

なおその規模の大きさに驚きを禁じ得ません。

3. 研修内容

現在私は **SickKids** において、病態が薬物の体内動態に及ぼす影響を検討する臨床研究を実施しています。日本においても一部の限られた病態について臨床研究を行ってきましたが、**SickKids** ではより幅広い多種の病態、多くの症例数について検討を行いたいと考えています。一介の **research fellow** である私が自身の **clinical question** を臨床研究として実施させていただけることは大きな驚きであり、感謝しつつ研究に取り組んでいます。臨床研究を実施するためには、ラボミーティングでプレゼンテーションし、指導教官である伊藤先生に研究内容の許可をいただいた後、研究計画書の提出、倫理委員会での承認、倫理研修の受講、カルテ閲覧のための手続き、データベース使用の手続きなど多くの関門がありました。不慣れな環境の中、私一人では到底対応できない内容ですが、研究室に所属する **Clinical Research Coordinator** の方が親身にサポートしてくださり、ひとつひとつ乗り越えることができました。手続きを進める中、非常に効率的だと感じたのは倫理研修受講のシステムです。カナダでは政府が作成した **e-learning** システムを各施設が共同で使用しており、日本のように施設ごとに倫理研修を個別に開催しなくてもよいのは非常に合理的だと感じました。また、**e-learning** の理解度確認はクイズ形式だけでなく、各シチュエーションに応じた対応を自身で考え、記述式で回答する必要があるため、**e-learning** であっても能動的に考える機会を得ることができ、より深い理解につながりました。

上記臨床研究以外では、他の基礎系ラボとの共同研究における臨床での薬物使用の知識に基づいた資料作成や、薬物トランスポーターについての資料作成など、今まで日本で経験したことのない研究に興味深く関わらせていただいています。また、5月には **trainee** として **Canadian Society of Pharmacology and Therapeutics** (カナダ臨床薬理学会)、学会 **work shop** へ参加させていただきました。学会ではカナダのヘルスケアの現状や **cannabinoid** に関するシンポジウムなどカナダならではの学術情報に加え、**work shop** では伊藤先生の講義をはじめとした **Therapeutics update** を聴講することができました。

その他、日本の学会のガイドライン執筆にもカナダに居ながらにして関わらせていただいています。

日本では、臨床薬剤師の業務をこなしながら臨床研究を実施するためには研究時間の確保がなかなか難しく、研究遂行のために体力的・精神的な負担が生じていましたが、現在は朝から夜まで研究に従事させていただいており、本当に有難く感じています。

4. カナダ トロントでの生活

トロントでは従来からの移民に加え、近年アメリカからの移住も増加しており、人口の増加に伴う住居の家賃上昇が続いています。今回、家賃をできるだけ低く抑えようと不動産会社に頼らず自力で物件を探し、物件管理会社と直接賃貸契約をしたのですが、書類審査に予想以上に時間がかかりました。カナダでの銀行口座が無いと、日本の所属施設での雇用を証明する **letter** や日本の銀行口座の残高証明を提出してはいましたが、私に家賃の支払い能力があるかどうか、指導教官である伊藤先生に直接確認の連絡があったとお聞きしてそこまでするのかと驚くと同時に、日本での職業や収入は全く評価に値しない異国の地に来たのだとしみじみ実感しました。

また、トロントでは4月中旬に大雪が降りました。日本で経験したことのないような大雪と体が吹き飛ばされそうな強風の中で大きな荷物を持ってなかなか進めずにいると、自身が濡れることも厭わず地元の方が手伝ってくださり、その優しさに感激しました。トロントにはフレンドリーで親切な方が非常に多く、この地で生活する上での大きな支えとなっています。

トロントには東京都から贈られたソメイヨシノが植えられており、トロントの人々は毎年桜の開花を楽しみにしています。開花時期に多くの人々が桜の花が咲くのをまだかまだかと楽しみにしている様子は、日本人である私も嬉しく感じてしまうほどでした。今年、私は渡航前の3月末に見た日本の桜、5月に開花したトロントの桜、と2度の桜を楽しむことができました。

5. 終わりに

4月中旬の大雪、5月中旬の桜の開花、その後短い夏を経たトロントは今、9月末にして朝夕は冷え込み、住居のセントラルヒーティングも入り始めました。これから長く厳しい冬を迎えますが、体調に留意しつつ、与えていただいた貴重な研修の機会を大切に、研鑽に努めたいと考えております。